

歴史散歩

わがまち 歴史散歩

市史編纂だより④⑤

『新修池田市史』はこれまで第1巻(地理・考古・古代・中世編)、第2巻(近世編)、第5巻(民俗編)を刊行いたしました。しかし、それ以降、新たな資料の増加や調査の進展などで、若干の修正も生じてきました。ここでは、こうした資料や修正箇所について、簡単ですが触れてみたいと思います。

鉢塚古墳の墳丘

珍しい上円下方墳

明治5年(1872)、明治政府より、イギリスから大阪造幣局の冶金技師として招かれたウイリアム・ゴウランドは、職務の余暇を利用して日本各地にある古墳を調査しました。そして、イギリスに帰国後、



平成8年の鉢塚古墳測量図

「日本のドルメンとその築造者達」という論文を発表し、その論文の中に鉢塚古墳(鉢塚2丁目・五社神社境内)についても触れていました。

ゴウランドは鉢塚古墳を「テラスのある墳丘」と述べており、墳丘の中ほどにテラスを持つ2段築成の古墳であることを明記していました。しかし、問題はその古墳の形でした。ゴウランドは墳形について言及していませんでしたが、昭和37年(1962)に墳丘の竹林が伐採された折、初めて墳丘測量が行われました。その結果、一辺40mの上円下方墳(方形の段の上に半球形を載せた形態)であると報告され、『池田市史』史料編①、長い間、全国でも珍しい上円下方墳であるとして扱われてきました。

上円下方墳への疑問

一方、考古学者の末永雅雄博士は『古墳の航空大観』(昭和50年)を著し、そのなかで鉢塚古墳について、上円下方墳を思わせる形状は、長い年月の間に人為的加工があったためで、なおよく検討を続けるべきであると、墳形について慎重な態度をとりました。

平成8年、池田市史編纂事業に伴い、再度、鉢塚古墳の測量調査を実施しました。完成した測量図をみると、たしかに上円下方墳にみえますが、下段の方墳部分の一辺と石室の主軸の方向がずれていること、しか

も、整然とした方墳をしていないことが分かり、方墳にみえるのは、末永博士が指摘したように、人為的加工によるものであろうと判断しました。そして、鉢塚古墳の墳形は、直径45mの円墳ではないかと推定するに至りました(『新修池田市史』第1巻)。

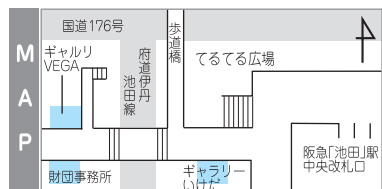
円墳と判明

平成13年、鉢塚古墳の東側隣接地で、住宅建築のため文化財保護法による届出があり、池田市教育委員会はこの届出に基づき試掘調査を実施しました。その結果、古墳の外側を円弧状にまわる幅7m、深さ80cmの溝を検出しました。この溝の存在から、鉢塚古墳は周溝をもつ円墳であることが分かりました。

鉢塚古墳の墳丘が上円下方墳ではないからといって、歴史遺産としての評価が下がったわけではありません。6世紀前半、二子塚古墳(井口堂1丁目)が造られた後、しばらくの間において6世紀末に、突如、巨大な石室を持つ円墳の鉢塚古墳が、さらに、これに継続して宇保猪名津彦神社古墳(宇保町)が造られます。これは、古墳時代後期末、池田地域で大きな変動があったことを物語っており、その解明の鍵は鉢塚古墳が握っているからです。

問い合わせは社会教育課市史編纂(☎753・2904)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 「ヨーロッパの光と陰」松浦敏夫銅版画展 ～10/6月
- 猿渡士郎個展 10/8(水)～13(祝)
- 小川温子銅版画と水彩画展 10/15(水)～20(月)
- 土肥謙三日本画展 10/22(水)～27(月)
- 銅版画展—イタリア時間—波江野陽子 10/29(水)～11/3(祝)

【ギャラリーVEGA】

- 第31回彩赤会展 ～10/6月
- 安食慎太郎個展 10/8(水)～20(月)
- 手仕事三人展 10/22(水)～27(月)
- 近藤雄士「木の家具展」 10/22(水)～27(月)
- 江原和足展「北摂春秋」 10/29(水)～11/3(祝)

【開館時間】10:00～19:00(最終日は16:00まで)

【休館日】火曜日

【入館料】無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉5万円(展示販売不可)

〈ギャラリーVEGA〉15万円(ブロックの分割使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水～翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
財団法人池田市民文化振興財団
(☎750・3333)